

表紙の説明

伯方島―夜明けの船出

河野芳久 陸自70

伯方島（はかたじま）は、瀬戸内海の今治と尾道間の来島海峡をまたぐ「しまなみ海道」沿いの今治市側の島である。この橋ができて、ようやく陸続きとなったが、当然ながら潮の流れに変化はない。伯方の塩と言ったらこの島を思い起こす方もいるに違いない。

来島海峡は、「一に来島、二に鳴門、三と下って馬関瀬戸」とも言われる船の難所である。中でも南側の大島と伯方島間の潮流は船折瀬戸（ふなおりせと）と呼ばれ、満ち引きで潮の流れる方向が変わり、流速もとても激しく、その昔ここを通る船が真つ二つに折れた事からその名が付けられたとも言われている。

当日早朝、朝日に浮かび上がっている沖合に出る漁船は、直接沖には向かわないで、実はまず画面右から急な潮の流れに沿って灯台の手前を左の木浦港方向に進んでいった。エンジンには、止まっていたようにも感じた。潮の流れが緩やかになった左端の場所付近からエンジン音が聞こえ始め、ようやく灯台の向こう側で太陽に照らされて沖合に向かって出ていった。

朝陽にばかり見とれていたが、早朝の自然の中に生きる漁船の動きを見て、人間と自然の調和を感じないではいられなかった。

（借行フォトクラブ会員）